'00.10.1
No.19

東京鷹桜同窓会報

『掬粋巧芸館』川西町より

巻頭の言葉

大友　茂之
山交バス株式会社
東京観光営業所所長

山形新幹線が福島から板谷峠を過ぎ、赤湯でフラワー長井線に乗り換えるとほっとした気持ちになる。長井線の汽車から見える昔と変わらない風景は、汽車通学をしていた二十数年前の高校生活を懐かしく思い出させてくれる。

私は昭和58年頃から、東京鷹桜同窓会の事務局の手伝いをしておりましたが、仕事の都合で平成６年に山形に帰りました。その後、平成10年に再び東京勤務になり、同窓会にも再度出席させていただくようになりました。東京鷹桜同窓会を一度離れてみて感じた事は、故郷を離れているからこそ「同窓会」という集まりが、楽しい語らいを提供してくれるのだということです。

今年創立80周年を迎えた母校と、「東京鷹桜同窓会」が21世紀に向けて今後益々発展することを祈念するとともに、今年の総会がより多くの参加のもと盛大に開催されることをお祈り申し上げます。

（昭和49年卒）

わが道を行く

苦難を乗り越えて

土谷　敏雄
（東京理科大学基礎工学部長）

１）卒業29年当時

この年は朝鮮戦争の経済ブームがしぼみ、バブル崩壊と同様一気に世の中が停滞し就職も困難さを増し、多くの同窓生が集団就職により上京していった。私は家庭の事情で教員志望から小国町の東芝電興の技術課に就職をした年でもある。普通校卒として技術系の工高卒に負けないためには、大変な努力が必要であった。東芝電興での青春は、友達、先輩、上司にも恵まれ、卓球部の選手として県大会に出場したり謳歌できたことは大変幸せであった。最初の年は、精錬現場での分析試料採取の３勤交代で２年間、その後、２年間化学技術者として種々の技術を学んだ。

２）恩師との出会い

技術課に配属された上司は、Ｉ氏という東大卒の優れた学者タイプの方で、この方の下ではどんなことでもしたいと思うほど感銘を受けた。Ｉ氏が品川の荏原町にある研究所長として転勤されて数年後、私を研究所に呼んでくれたことが私の人生の転機となった。先輩諸氏が当時職場から大学の夜間部へ進学して頑張っていた。その折りに、恩師から多くの先輩は化学系の大学に進学している、君は理学系の物理を専攻してはどうかとの助言をもらった。高校時代は物理が大の苦手であったが、一つ挑戦してみようと東京理科大学の理学部物理学科に入学をした。朝はこっぺぱん、昼はそば、勤務が終了すると同時に大学に駆けつけ授業終了後、大井町で定食屋に飛び込んで夕食を取るのが一日の中で、大変楽しい一時であった。

恩師が経営者との確執で違う企業に去った後に私も夜間部の２部から昼間部の１部へと転部して研究所を退職した。大学では卒業研究時に「格子欠陥」の研究、大学院では修士および博士課程で「高分子物性」の研究を行った。

３）研究テーマの変更

博士課程終了後、意外な就職口が飛び込んできた。それは理工学部長をしていた森谷教授が是非私に助手として手伝ってくれないかと誘ってくれたことであった。森谷教授は、ガラスの世界的な研究者であった。「高分子物性」から「ガラスの物性」へと180度の転換となった。これが私にとり第２の転機でもあった。結晶質の高分子から非晶質のガラスへと想像を絶するほど難しい転換であったが、初めて手がける研究はやればやるほど興味が涌き学生と徹夜しながら毎日ガラスを溶かす事に専念した。68年UCLAのゾル・ゲル法の世界的な権威のMackenzie教授から招かれ客員助教授として１年２ヶ月行く機会を得た。日本の大学での研究体系の甘さとアメリカでの人的および研究費獲得等の研究の厳しさと、ゾル・ゲル法から機能性セラミックスを作製するという手法を学んだ。これが私の現在の主な研究分野でもある。今後、電気・磁気・光・バイオ関連セラミックスの多くの分野で企業化されていく分野でもある。

４）後輩の学生に望むこと

現在、高校生の理工学系離れが進展し、国立、私立大を問わず「工学という本来の魅力を掘り出し、伝えていかなければ、それには高校生では遅すぎる。初等教育から考え直していく必要がある。」と指摘されている。事態は深刻である。日本の様に資源の少ない国では技術立国以外に生きる道はないと考えられる。日本の将来を思うとき後輩の学生諸君の理工系大学への進学を期待したい。

５）遥かに故郷を思うとき

長井に住んでいた青少年時代には周囲の景色や環境には意外に無頓着であった。しかし、年を重ねるごとに実家に帰った折りなど回りの飯豊、朝日連峰、熊野山、祝瓶、東山等に囲まれ最上川、野川、アヤメ、つつじ、萩公園等大変素晴らしい自然に恵まれている事に気が付く。置賜地方の素晴らしい自然のバックグランドを基に、今後益々グローバリゼーションが進展する世界に羽ばたく人材が長井高校から多く育つことを祈念したい。

'99同窓会総会 ナント!! 芋煮会

'99年11月13日 東京サマーランドにて

秋空・故郷の味・家族の笑顔

新宿発２台の貸切バスは満員の同窓生を乗せ、一路都下東京サマーランドへと向いました。

幹事のホンの思いつき、「たまには変わった総会スンベ!!」との一言から、高橋会長が社長をなさっているサマーランドでの芋煮会総会となりました。

輝くばかりの晴天のため中央高速は大渋滞、ようやく到着した会場では安部事務局長のお店の皆さんで事前に準備をしていただいていたためスムーズにスタートいたしました。感謝!!

渋滞に疲れた顔も故郷の秋の味と山形の地酒の前では笑顔・笑顔、一緒に参加していただいた御家族の皆さんにも楽しんでいただけたのでは、と思います。

そして帰途はスムーズではありましたが、若手中心の２号車は、異常な盛り上がりであったとか……。

到着した新宿の街での４次会にて、安部事務局長は前後不覚になり、御帰宅なさったとの由。

総勢100名強の参加の皆さんと、御協力いただいた皆さん、本当にお疲れ様でした。

母校は本年、創立80周年

6月17日、母校は創立80周年の記念行事を長井の地にて盛大に挙行いたしました。

東京からは高橋会長以下4名のメンバーにて参加いたしました。

式典は母校体育館にての記念式典、引き続いての記念講演（講師は昭和45年卒で桑島眼科医院の桑島一郎医院長、テーマは「わが青春に悔いあり……後悔のススメ」）、そして場所をTASのコンベンションホールに移しての同窓会総会並びに記念祝賀会となりました。

記念祝賀会では、80周年の記念事業についての経過と報告、そして昭和29年卒で母校にて体育の教員もなさった安部新一先生をはじめとする皆さんの祝謡が披露されました。

続いての乾杯は、東京鷹桜同窓会の高橋会長が母校の益々の発展を御祈念の後、声高らかに御発声されました。

長井では最大のTASのコンベンションホール、そこに集いし各界からの400名を越える同窓の皆さんを目の当たりにし、母校の歴史の持つ大きさと影響力を改めて感じた一日となりました。

☆本年学年同窓会を開かれた皆さん☆
昭和25年卒・昭和28年卒・昭和29年卒・昭和31年卒・昭和34年北高卒・昭和35年卒・昭和37年北南卒・昭和49年卒

第一回東京鷹桜同窓会会長杯コンペ報告

本年5月13日土曜日の早朝、東京駅銀の鈴には眠い目をこすりながら、しかし足取りは軽く一人また一人と往年の美少女そして美少年が集まりました。

そうです!!　昨年の会報でも御報告しましたが、第一回目となる東京鷹桜同窓会会長杯コンペが高橋会長も御参加のもとスタートいたしました。

向かうコースは、昨年同様昭和30年卒の佐藤司朗さんが支配人をされている千葉県勝浦市のフォーシーズンカントリークラブ。

総勢19名の賑やかなコンペは、往きの車中での乾杯に始まり、舌戦も鮮やかにスタートいたしました。

当日の天候は曇り時々晴れまさに素人ゴルファーのスコアのような空の下大いに盛り上がったコンペそして懇親の一日となりました。

ダブルペリア方式のルールの結果、優勝はナント!!　昭和31年卒の菅野清子さんの頭上に見事に輝きました。

帰りの車中、そして一部のメンバーは下車後の東京駅地下街での反省会と、朝から晩まで楽しめる同窓会コンペに、皆さんの御参加を心よりお待ちしております（次回については事務局に）。

故郷・新名所・再発見

財団法人掬粋巧芸館

清酒「樽平」「住吉」、故郷山形を代表する地酒である事は皆さん御存知の通りです。

この蔵元である樽平酒造株式会社が、同社の敷地の中で陶磁器の美術館を運営されている事は御存知でしょうか？

今回は、この財団法人「掬粋巧芸館」を訪ね、館長の井上さんにお話を伺いました。

創立が昭和７年のこの美術館は、井上家の十代目の庄七氏が蒐集していた美術品を元に財団法人組織としたものです。

設立にあたっては、米200俵が作れる田地を美術館の基本財産として井上家より寄附されたそうですが、戦後の農地開放のため無財産となってしまったとの事です。

住　　所／〒992-0122　川西町中小松
　　電話 0238-42-3101
入 館 料／大人600円・学生500円・団体500円
開館時間／春～夏季　9：00～16：00
　　秋季　　9：00～15：00
休　　館／毎週月曜及び11月中旬～４月中旬

「掬粋」とは、粋な物をすくい上げる意味を持つとの事。戦前の内務省高官であった奥田誠一氏の命名であります。

美術館としては、我が国では「大倉集古館」「根津美術館」（共に東京）に次いで三番目の歴史を誇り、財団法人としては鳩山一郎氏が文相時の第一号認可になるとの事です。

主な館蔵品

中国／漢時代～清の陶磁器　約250点
朝鮮／新羅・高麗・李朝までの100点
日本／鎌倉～近代までの約200点の他、
重要文化財・重要美術品・県文化財など約600点が常時展示されております。

◇事務局からのお知らせ◇

(1) **活動報告**（平成11年分）

10月　総会案内発送作業（モー吉）
昭和45年卒・事務局員　お手伝い有志、総勢30名弱にて無事終了。

11月　11月　芋煮総会（サマーランド）
はるばる本部会長、現校長をお迎えしての芋煮会・会員参加者85名、オープン参加者25名。

活動報告（平成12年分）

5月　有志による第一回東京鷹桜同窓会会長杯ゴルフコンペを行ないました。参加者19名、第一回優勝者、31卒菅野清子さん。

6月　本部総会、80周年記念
当会より、会長他3名出席。

7月　学年幹事会（モー吉）
53名の出席。今年度総会は11月11日(土)摩天楼大飯店（飯田橋店）にて開催することに決定。懇親会は多いに盛り上がりました。

8月　事務局会議
編集員、並びに事務局員の有志が打合せを行なう。

10月　第二回会長杯ゴルフコンペ企画
6パーティの予定です。

(2) **平成11年度会計報告**（平成12年3月31日現在）

〈収入〉		〈支出〉	
前年度繰越金	695,628	総会費	855,036
年会費	872,350	事務費	207,790
総会費	685,000	会議費	91,935
御祝金	191,000	印刷費	336,082
本部より援助金	13,000	通信費	380,627
受取利息	1,310	税　金	261
計	2,458,288	計	1,871,731
次期繰越金	586,557		

〈事務局より〉

五年前平成8年度総会をピークに年々参加者が減少し、その分予算が逼迫してきました。そこで窮余の一策として昨年度の芋煮総会を企画したつもりでしたが、思惑がはずれ、会員の参加が80人そこそこに終わりました。事務局の見通しの甘さが露呈した形になった訳です。救いは、参加者からは概ね好評だった事、又、移動のバス中、先輩諸氏より多大なカンパを頂き20万円程になりました。おかげ様でこの企画が赤字にならずにすんだ事です。反省会では、これに懲りずに、五年に一回ぐらい、用意周到に事を運ぶべし！　との励ましもいただき、事務局一同胸をなでおろしているところです。ゴルフコンペは、和気あいあいで、本当に楽しい一日を御約束します。上手下手にかかわらず、うまいビールを飲みたい方、他のコンペの参加に自信のない方、是非参加して下さい。

7月に開かれた学年幹事会には53名の参加があり多いに盛り上がりました。この空気を本総会に結集できることを確信しております。11月11日の二次会には、玉コン、もって菊、芋煮を用意しておきます。一口置賜弁で語り合い、リフレッシュしましょう！

◇編集後記◇

今夏もビールとクーラーの良く売れた猛暑の日本列島でした。皆様には置賜人の粘り強さを発揮され、お元気でこの暑さを乗り越えられたことと拝察いたしております。この暑さ真只中に、編集子その1は昨夏に引き続き、帰郷取材し、名カメラマン兼名記者ぶりを発揮してくれました。謝々。

依頼原稿のプッシュ、回収、編集作業を通して執筆にご協力いただいた諸兄、諸姉の暖かさ、責任感、律義さに触れる一瞬を感じます。このような良き思いが、このささやかな紙面から会員の皆様一人一人に波及していきましたら幸いです。

では来たる11月11日摩天楼でお会いしましょう。

東京鷹桜同窓会報　第19号
平成12年10月1日　発行
発 行 人：東京鷹桜同窓会
編集委員：遠藤　剛、江原明子

＊東京鷹桜同窓会：長井中学・長井高女・長井南・長井北・長井高校の卒業生による東京首都圏在住者の同窓会組織

＊事務局：〒107-0052 東京都港区赤坂1－6－14 赤坂協和ビル204
土屋東一法律事務所内　（電話：03-5570-5834）